

おお大勝利

平成 25 年度山東サッカー部報第 12 号 (7 月 11 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

新チーム対決 山南に屈する

7 月 6 日 (土) Y 2 A リーグ第八節の山形南戦が山形中央サッカー場にて行われました。本節の相手は山形南。今季 Y 2 A 初戦で対戦し、辛うじて引き分けに持ち込んだ記憶が新しい。3 年生は引退しましたが、**山南は一年生だけで臨んだ昨年の進学校大会で優勝したこと**から考えても、**3 年引退で力が落ちたとは言えない**。前節の長井高校戦を観ても、引退前後でチーム力が落ちた印象はないし、もしかすると新チームが勝ってしまうかもしれない。そんな山形南の印象。対する山東は、3 年生が引退し、チーム作りはまだ手探り。メンツを考えるとチーム力の低下は否めない。苦しい試合となることは予想されましたが、リーグ戦の勝ち点で競り合っているチームだし、伝統的にライバル関係にある高校でもある。そして、部報前号に記したように、夏の甲子園予選で対戦する両校¹、野球部の露払いをサッカー部が務めるとばかりに、勝利したかった。

さて、試合開始。山南は前節も今節も、小刻みなパスワークで丁寧な試合を作ってくる。圧力をかけられても簡単にロングボールに頼らず、確実にボールを保持しようとする。対する山東は、ボランチが左右にボールを配給し、サイドハーフが早めに FW を使い、FW がドリブルでフィニッシュする形が多い。攻め口としては、迫りエリアの攻防に持ち込む山南とピッチを広く使う山東といえるでしょうし、ショートパスを多用する山南とミドルパスを多用する山東ともいえる。これは試合を通していえることですが、**ボール保持率 (ボールポゼッション率) で上回った山南に対して、シュート数で上回った山東という展開。ゴール前までより多く迫ったのは山東ですが、ボールを保持する時間が山南の方が長い分、特に前半は山南がゲームを支配した印象あり**。前半中盤、①ルーズボールの競り合いに負け、②簡単にゴールライン付近までボールを運ばれ、③簡単に CK を献上し、④その CK でニアサイドで選手がだぶってクリアしきれず、⑤ボールが流れてきても対処できるようにゴール真前で準備している選手がおらず逆サイドまでボールを流してしまい、⑥流れたボールに対するアプローチが遅れ、⑦簡単に上げさせた滞空時間の長いゴールに近い位置のロビングボールに対して GK がチャレンジできず、または、⑦誰も競り合う FP (GK 以外の選手、フィールドプレイヤーの略) がおらず、ドフリーでヘディングシュートを許し、失点。何重にも悪い対応が続き失点する。甘さが凝縮された形で失点する。前半 0 - 1。

後半も攻め口・展開としては同様ですが、**山東の出足が勝るシーンは前半より多かった**か。山南のショートパス戦法に対して、果敢にプレッシャーをかけ続ける。しかし、流れが

¹ ちなみに、甲子園予選での東南戦は 7 月 13 日 (土) 県野球場にて 12:30 開始されます。山東は全校応援で臨みます (もちろんサッカー部も駆けつけます)。山南は全校応援ではないそうです (3 回戦から全校応援か)。山東もちょっと前までは「全校応援は 3 回戦から」のルールがあったのですが、そこまできかなか行けなくなり、初めから全力投球するようになりました。ちなみに、両校の野球部は、今季すでに 2 度対戦しています (東南定期戦、春の地区予選にて山東の 2 敗)。「2 度あることは 3 度ある」が勝つか、**「3 度目の正直」**が勝つか、もちろん全校応援の力で後者にしたいですね。

来て押し込む展開になればなるほど、守備に集中していた時間には与えなかったDF後方のスペースを使われる（すなわち一発でやられる）危険性は高まる。まさに、その通りの展開から、山南の野性味あふれるFWタダ（もちろん山東OBタダの弟）に冷静に決められ、追加点を献上（図1）。このシーン、タダは山東から見て左サイドに出されたロングボールに反応して斜めに走りこんでGKとの1対1を作ったわけだが、彼に対して最終的にアプローチしたのは逆サイドのバック（右SB）のヨウタ（図2）。①CBは何をしていたんだ、と感じるし、②CBの死角から走りこんだとしたら、タダの動きが見えている右SBはなぜしっかりCBとコミュニケーションをはからなかったか、と思うし、③CBが間に合わず逆サイドのバックが間に合うということは逆サイドバックがかなり深いディフェンスラインを敷いていたことをうかがわせるが（図3）、それならそれで、なぜ最終ラインにいる右SBがCBの背後に走ろうとする相手FWに対してオフサイドトラップ（意図的にラインを上げ意図的にオフサイドの反則を取りに行くこと）をかけたのか、と歯噛みせずにはられない。2点ビハインドになり、なりふり構ってられなくなった山東はツートップにして前線に起点を増やそうとし、攻勢に出るが、シュートチャンスを悉く外し、結局決まったのは相手のミスがらみの一点のみ。**止める・蹴るの基礎技術の低さが露骨に出る拙攻**となりました。最後は2失点目とほぼ同様の形？からGKが相手を倒しPK献上、3失点目を食らったところでタイムアップ。結局1-3の敗戦となりました。

結果は残念でしたが、まだまだ始まったばかりともいえます。ただ、簡単に失点し、簡単なフィニッシュが決まらないという問題をクリアするのは、結構遠い道のりと思われる。一つ、チーム全体のコンセプトにかかわることについて。山東では無暗にラインを下げず前線からプレスを仕掛けるディフェンスをやろうとしています（図4）が、山南のようにバックパスも厭わないチームに対しては、**《奪いに前へ行くならみんな、できないなら行かせない》**というディフェンスが求められる。でないと、前がかったことがあだとなり、無駄走りをすることになる（図5）。前から行くならその選手を孤立させず、みんなと奪いに行く（連動する）必要がある（図6）し、連動できないなら、前方の選手に自重させる必要がある。**要は組織的に守備をすることが重要**ということ。この試合、しばしば山南のパスワークに振り回されましたが、組織的に守備できなかったことが原因でした。次節も、応援よろしくをお願いします。

